

松前藩戸切地陣屋(四稜堡)(国の史跡)(北斗市野崎)

戸切地陣屋（へきりちじんや）は、現在の北海道北斗市野崎にあった陣屋である。安政元年（1854 年）、江戸幕府が外国船に対する警備のため、松前藩に命じて築造させ、約 4 か月で完成した。穴平陣屋、松前陣屋、清川陣屋など様々な通称があるが、昭和 40 年（1965 年）、国の史跡に指定された^[1]折に「松前藩戸切地陣屋跡」という名称に統一された。桜の名所としても有名。

概要と歴史

松前藩士・藤原主馬の設計によって縄張りがされた。

陣屋の総面積は、43,400 平方メートル、形状は四稜の星形で、東南部の稜堡に 6 門の砲座を配置した。上から見ると亀のようにも見える。

明治元年（1868 年）、榎本武揚率いる旧幕府脱走軍が森町鷲ノ木に上陸し、陣屋守備隊は大野付近で会戦、撃破され、陣屋に退却。旧幕府軍の陣屋への追撃を見て、守備隊は自ら陣屋を焼き払い松前及び箱館に敗走した。

明治 37 年（1904 年）、日露戦争の勝利を記念して、函館の呉服商である岩船峯次郎が表御門跡から陣屋登り口までの一本道に桜の木を植樹し、以来、桜の名所として知られるようになった。

Wikipedia による

史跡 松前藩戸切地陣屋跡〔へきりちじんやあと〕

1854 年日米和親条約で下田と函館が開港。その翌年、幕府による蝦夷地防衛の強化のため、松前藩は七重浜から木古内までを分担し、その陣屋としてこの戸切地陣屋を築いた。蘭学の築城書による四稜堡で、郭内には大砲 6 門と 17 棟の建物があり、約 120 人で守備していましたが、13 年後の明治元年（1868 年）箱館戦争の時、相手方に陣屋がつかわれないう建物に火をつけ焼払ってしまいました。城造りの資料として価値が高いことから、国指定の史跡となっています。郭内は、表御門と裏御門が復元され、大砲入跡、筒入跡、蔵跡、目付詰所跡、武器庫跡等、整備されている。

また、道道から陣屋へと続く桜並木のトンネルは特に見どころで、郭内外に咲きほこる桜は、北斗市の桜の名所となっている。

はこぶら(函館市公式観光情報)による



「戸切地陣屋絵図」

